

RPJ News

2019年 2月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801

毎月1回発行 E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

連絡先 090-1811-7119

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

内 容

* 『尾道のぞみ会』の魅力ってなんだろう?!

～次世代と共にすり合わせる大切な瞬間～

(社福)尾道のぞみ会 多機能型事業所 ヴィータ 森川 尚子

* 好きなことをやること

(社福)尾道のぞみ会就労継続支援 B型事業所やまと 多田 圭希

* 中高年の鬱(?)

実行委員 (社福)尾道のぞみ会 橋本 周治

* 事務局からのお知らせ

○ 2019年第13回イタリア地域精神保健視察研修ツアー募集のお知らせ

* 『尾道のぞみ会』の魅力ってなんだろう?!

～次世代と共にすり合わせる大切な瞬間～

(社福)尾道のぞみ会 多機能型事業所 ヴィータ 森川 尚子

みなさま、こんにちは。今が旬の八朔・でこぼん・きよみに囲まれ、爽やかな香りに癒されながら活動している森川です。

私が所属している多機能型事業所ヴィータ【生活訓練(自立訓練)定員6名、就労継続支援B型・定員14名】は、2015年9月に開所し、早3年が経過しました。『一つでも多くの社会資源を…』という思いから、瑠璃寮の従たる事業所として始めた生活訓練(自立訓練)事業。従たる事業所として因島の土地で始めたのが2014年4月のこと。従たる事業所と言えども、居を構えるまでに8年を要した経緯がある中、今このように多機能型事業所として活動し、継続出来ていることに感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、手前味噌ではありますが、当所が今このように継続できているのは、日々『ご縁』と『つながり』を大切にしながら活動している仲間がいるからだだと自負しています。

ただ、すべての仲間が、出合う『ご縁』に気づき・『ご縁』とつながり・『ご縁』を活かしているとは限りません。幸いにも私が入社したときは、上司が視察と称し、全国様々な土地や人と出合う機会を下さり、その『ご縁』とのつながり方や活かし方、時間の遣い方をそばで見せてくださいました。また、これからの精神保健福祉や自身が生活している地域でどのように活動を展開していくかを熱く語り合うことが多かったように思います。



では、今はどうでしょう…。正職員 24 名に対し、平均年齢 37.1 歳。平均勤続年数 11.2 年という『尾道のぞみ会』。

3 年前に新卒者 2 名を採用して以降、職員募集を継続して行っているが、仲間は増えず。人材確保は、事務長一人で孤軍奮闘。就職総合フェアや企業説明会へ行くも成果なし。

このままでは、法人の存続も危ぶまれる…。そこで 2018 年 1 月より人材確保検討チームを立ち上げ、6 事業所より各 1 名ずつ加わることとなりました。今まで事務長任せであった人材確保の動き。まずは、動きの確認と役割分担を行いました。就職フェアも担当制で参加をし、『2019 採用 2 名』を目標に活動しました。が、1 名内定辞退。結果、2019 採用は 0 名。採用人数としては、成果がありませんでした。

しかし、若手職員を含むチーム編成で他事業所間交流が図れ、各人が思う自事業所の魅力のすり合わせと承認が行えたことは、今後の人材確保に向けての活力となりました。

『当会の魅力のすり合わせ』は、いわば、個人が日々大事にしているかかわりの振り返りであり、各事業所のチームワークの振り返りでもありました。相互の活動を承認し合うことでより一層自信をもって、当会の魅力を学生等に発信することが出来ると確信に変わりました。

このたび、『2020 採用目標は 4 名』としています。前年度で学び得た経験を糧に今回は、戦略的に活動すべく、担当する就職フェアセミナーへ参加しています。各自が学んできた内容をすり合わせるとともに当会の魅力について改めて意見を交わしました。

3 月 8 日を皮切りに広島県内外の就職フェア(2020 採用)に参加予定です。そこで使用する PV を『ルーリーズ』の仲間と共に各事業所の利用者・職員協力のもと、制作しました。約 7 分間の映像には、尾道の最北端にある『やまと』(就労継続支援 B 型事業所)からはじまり最南端にある『ヴィータ』まで山間部・市街地・島嶼部の様子が織り交ざっています。あまりの完成度に RPJ の仲間にもお披露目する機会があったら良いのになあ…とほのかな願いを込めて、この辺りでペンを置きます。



* 好きなことをやること

(社福)尾道のぞみ会就労継続支援 B 型事業所やまと 多田 圭希

みなさま、こんにちは私は広島県尾道市にあります社会福祉法人尾道のぞみ会就労継続支援 B 型事業所やまとに勤務している多田圭希と申します。

私はたいへん音楽が好きで福祉の現場で働くようになってからは「ただ歌う会」という昔の歌謡曲をみんなで輪になってギター伴奏で歌う会や、「ルーリーズ」というバンドを利用者の方と結成して活動してきました。「ただ歌う会」は既成の歌を歌うだけで意外と続かなかったのですが、オリジナル曲を作って演奏するバンド活動はみなさんの興味を引いたのか長く続いています。

この利用者の方とのバンド「ルーリーズ」(ルーリーズという名前は法人がある瑠璃山にちなんでいます)も 2000 年に結成しましたので現在では 19 年目になっています。週に一回 1 時間の練習で今まで様々な利用者の方が参加されました。体調不良や入院等でメンバー交代も激しいバンドですが立ち上げからのメンバー神原さんとはもう 19 年来のバンド仲間です。みなさ

ん作詞作曲されてオリジナルの曲を創作しています。とてもユニークではっとさせられる歌詞が多く、たとえば「冗談と青春」とか「働くのはしんどい嫌いだ」等とてもストレートに響きます。なかにはあらかじめ歌詞を書くことはされず、その場の思いつきで歌を即興で歌われる方もいました。その歌詞もとても素晴らしかった。



やはり人間はなにか創造的な活動というものが生きる活力になるのかなと思います。

2015年に「とよはし音楽祭」というのに参加して愛知県豊橋市に演奏旅行に行ってきたのですがその時のライブの後に記念撮影をしたのですが神原さんが「ここ何十年かぶりの笑顔が出た」と話されたのがとても印象に残っています。またルーリーズもお声がかかればあなたの街に演奏をしに伺いますのでよろしく願いいたします。(ルーリーズの宣伝でした！)

やまと事業所では昼食を料理に興味のある利用者の方が作られているのですが、ここ最近土曜日は決まってペペロンチーノを作っています。(にんにく、唐辛子は農作業で収穫したものを使います) かれこれもう毎週土曜日のペペロンチーノも 30 回くらいになっていて利用者の方が作り方を研究されています。「今日は塩味が濃かった」「オイルが多かった」「乳化がうまくできた」と毎回反省点を挙げて修正されています。休みの日にはおいしいイタリアンのお店に研究にも行かれているようです。彼を見ているとほんとうに好きなことをやるというのはとても生き生きとしたことだなと思います。みなさんそれぞれに好きなことを続けていくことが大切だなと感じています。不思議と毎週ペペロンチーノを食べても飽きが来ません、利用者の方も土曜日はペペロンチーノ目当てに来られる方もいます。事業所を卒業して一般就労されている方もペペロンチーノを食べに遊びに来られたりしています。また機会があれば土曜日のペペロンチーノを食べに来てみてはいかがでしょうか？
以上尾道から多田圭希がお届けしました。



* 中高年の鬱(?)

実行委員 (社福)尾道のぞみ会 橋本 周治

今年の冬は暖かい日が多いですね。尾道でも梅の花が綺麗に咲き、桜の開花も予想よりも早く咲きそうです。同時に花粉も勢いよく舞い散っていますので、点眼薬と点鼻薬が欠かせない日々が続いています。が・・・。

昔はある程度年齢を重ねると仕事が楽になると勝手に想像していましたが。実際はそんなことはないのだなと実感する毎日です。膨大な事務量、増え続け求められる役割と責任に加え、深刻な人手不足が重なり、どうにもならなくなりました。以前は、記事や国の検討会等の議事録を読んだり、色んな会合などに顔を出したりして情勢や法改正の動きなどにも気を張っていましたが、今は日々の業務や雑務に忙殺され、すっ

かり疎くなりました。「なんでこんなことをやっているんだろう」とふと考えてしまうことが増えてきたように思います。以前よりも判断や処理スピードも遅くなり、自身の無能さを憂いている毎日です。燃え尽きかけているのでしょうか？それとも中高年の鬱(?)でしょうか？

このままではいけないと思い、まずは人手不足問題を解決するため、人材確保検討チームを昨年立ち上げました。まだ成果には繋がっていませんが、若い世代が中心になって活動してくれています。また、背負っている役割や責任という名の荷物を軽くするため、担ってくれる優秀な若手の人材を育成しようと、人材育成にも注力することとしました。「これは！」と思う良質な研修をセレクトして受講させたり、実践を積みせたりして次世代を育てていこうと考えています。私達が大事にしてきたものを次世代に繋いでいきたいのです。本協会のイタリア研修にもできれば若手を派遣したいと考えています。(が、長期の研修は業務や家庭の事情も絡んでくるので、具体的な人選に至っておらず、そのあたりは協会の皆様にご迷惑をおかけしている状況です。すみません。)

尾道市と共同で取り組んでいる「こころサポート事業」も次第に認知され、徐々にではありますが、成果に繋がっている事例も増えてきました。地元紙にも取り上げてもらい、市民に少しずつ関心を持ってもらえればと願っています。また、尾道市ではスマホで使える「こころの体温計」という無料アプリも配信していますので、機会がありましたら利用してみてください。iPhoneでもAndroidでも利用できます。

ちなみにこのアプリで私は「かなりストレスが強い状態」と判定されました(涙)。

2019.1.16(水) 中国新聞

支援チームに精神保健福祉士ら

人口10万人当たりの自殺者数が全国平均を上回る尾道市が、自殺予防の取り組みに力を入れている。本年度から、心の病に対応する市の支援チームに、民間の精神保健福祉士を加え、相談・ケア態勢を強化。スマートフォンやパソコンでストレス度などを測る無料サービスも始めた。(中間卓也)

スマホでストレス測定も

支援チームは、市の病院で受診するようになり、医師や看護師、心理士などが加わった。地域に社会福祉法人道尾のぞみ会の精神保健福祉士が加わり、相談・ケア態勢を強化。スマートフォンやパソコンでストレス度などを測る無料サービスも始めた。

「死生観」が異なり、経済的理由など複数の要因が重なって起るケースが多く、率が高い原因の特定は難しい。「同課」とするが、一過性で済む人も少なくない。対策を講じた上で、22年までに自殺死亡を19・3人以下に引き下げる目標を掲げる。同課の松田智子・元気づくり担当は「一人ひとりの状況に応じた対策を」と話している。

尾道市、自殺予防に力

自殺率(人口10万人当たり)の自殺者数は26・7人で、減少傾向が続く(全国平均16・9人)。尾道市は15・6人を大きく上回る。市は「自殺は病気の要因が重なって起るケースが多く、率が高い原因の特定は難しい」とするが、一過性で済む人も少なくない。対策を講じた上で、22年までに自殺死亡を19・3人以下に引き下げる目標を掲げる。同課の松田智子・元気づくり担当は「一人ひとりの状況に応じた対策を」と話している。



* 事務局からのお知らせ

○ 2019年第13回イタリア地域精神保健視察研修ツアー募集のお知らせ

期間 5月13日(月)～5月22日(水)

参加費 39万8000円 ※燃油サーチャージ・空港諸税は別途

催行は確定しております。案内書および申込書はホームページをご覧ください。



—編集後記—

尾道のぞみ会の皆さん、2月号の紙面を飾っていただきありがとうございました。人材確保に関しては、どこの事業所さんも同様の悩みを持ち、対策を講じて、試行錯誤していると思います。今回の内容も参考に、事業所全体の問題として立ち向かっていくと良いかもしれません。ヒントをいただきました…。早いもので、平成30年度も残すところ1ヶ月となりました。今年度に、遣り残したことはありませんか？(m.shiida)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会 TEL090-1811-7119